

## 好きなだけ飲酒させる



夫を認知症にさせる10カ条。そ

の2は「好きなだけ、酒をのませる」ということだ。男だつて、過ぎた酒が脳に悪いことも、血圧が上がることも、アルコールに発がん性があることも薄々知っている。

でも、お酒をやめなかった67歳のKさん。新しいことを記憶できない。そのため、作話（つづ）といつて、つじつまを合わせるため作り話をする。時間や場所の感覚もいいかげんだ。

アルツハイマー型認知症に似ているが、作話が目立つのと、症状の経過が早過ぎる点が違つ。奥さんを亡くして一人暮らしになり、次第にお酒の量が増えた。毎日、酔い

## 認知症にさせる第2条

つぶれるまで飲むようになった。

やがて歯が悪くなり、硬いものが食べられなくなった。口にするのは、うどんと日本酒か焼酎だけだったという。ビタミンB1欠乏による「コルサコフ症候群」である。

B1は、脳の働きには大切なビタミンである。ブドウ糖からエネルギーを作り出す代謝に使われる。そのB1が不足すると、エネルギー不足で脳の神経細胞はダメになっていくのだ。アルコールはそのビタミンB1の吸収を悪くさせる。また、アルコールの分解にはB1が消費される、などと、アルコールは神経細胞にはマイナスにしか働かない。

## 日本酒1合半で機能低下

ここで「自分は、そんなに飲まないから」と、安心はできない。中老年の男性が、日本酒に換算してわずか1合半のアルコールを毎日のように飲んでいたら、10年の間に認知機能の低下が早まっていたという統計もある。

と、脅かしても、男はお酒をやめられないし、減らすこともできない。まるで子供と同じで、言えば反発するだけかも。だから、亭主には、「好きなだけ飲んでね」とお願いしたらよい。ハッと気づいて、禁酒しだすかもしれない。ダメ元だ。試してみよう。

(石黒修三 しいぐるクリニック  
脳神経外科専門医、金沢市在住)